

## 単身世帯に合わせた減築提案

### Proposal for reduction in size to suit single-person households

佐藤信治<sup>1</sup>, 鈴木暖<sup>2</sup>,  
Shinji Sato<sup>1</sup>, \*Suzuki Dan<sup>2</sup>

The lack of mutual assistance among residents and the weakening of community ties are some of the issues that have been raised nationwide in recent years. In order to create a community that is suited to the current situation in which single-person households account for the majority of the population, we will consider the new form of housing and living styles of the future.

#### 1. はじめに

住民同士による共助の欠如や地域のつながりの希薄化は近年全国的に取り上げられる問題の一つである。単身世帯が過半数占めた現在に合わせたコミュニティの形成を目指すため、これからの新しい住戸の在り方や住まい方を考える。

#### 2. 計画背景

##### 2.1 世帯構成・共働き世帯数の変化

年々世帯構成の人数減少が進んでいる。1970年代では、夫婦と子供からなる核家族が全体の4割を占めていた。しかし、2020年には夫婦のみからなる核家族と単身世帯の合計が6割まで増加した。

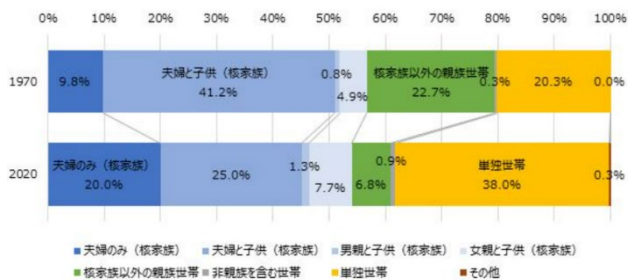


Figure 1. Changes in household composition [1]

##### 2.2 変化する住まい方

かつては、人が常に住居に滞在していた。しかし、共働き世帯の増加により昼間は仕事等で住戸を留守にすることが増えた。夜間と朝方のみしか滞在をしない世帯が多く、かつての住まい方と現代の住まい方は大きく変化した。

##### 2.3 失われつつある共助

住戸の滞在時間が減少したことにより、地域住民同士の交流がなくなりつつある。地域で助けあう共助は、交流をし信頼を気付くことが重要であるため現代では失われつつある。

#### 3. 敷地選定

##### 3.1 計画敷地

神奈川県横浜市神奈川区浦島町・子安通1丁目を計画敷地とした。計画敷地は木造密集住宅地であり、災害時の延焼や倒壊の危険、緊急車両の進入の困難などの問題を抱え、横浜市に改善推進地区の指定を受けている。また、重機を用いた個別の解体が難しい現状を抱えている。



Figure 2. Densely-populated wooden residential area [2]

##### 3.2 共有から生まれる共助

生活が路地に漏れ出しており、路地を共有して活用している。また、計画敷地内にある防災井戸を住民が共同で維持管理している。これらの共有により共助という考え方が地域に根付いている。

#### 4. 基本方針

##### 4.1 コンセプト

「小さく住み、広く暮らすシェア時代へ」

滞在時間が少ないため住居の機能は必要最低限とし、小さくする。生活を豊かにする娯楽空間は、独占するのではなく地域住民と共有し使用する。共有することで住民同士の接点を増やし交流を促す。

1: 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

2: 日大理工・院(前)・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

## 4.2 手法

減築時に発生する粉塵の飛散を防止するため、単管とメッシュシートを活用し足場を組む。そして、核家族に向けて建てられた住居を単身世帯向けに減築する。その後、減築部分に単管を活用し娯楽空間を挿入する。また、フレキシブル性の高い単管とメッシュシートを活用することで住民自ら娯楽にあった空間を作成することが可能になる。



Figure 3. Diagram

## 5. 計画

### 5.1 空間構成

町と住居の関係性は、場面によって異なる。住民の在宅時と不在時により、住戸と町の境界線はメッシュシートを境に変化する。

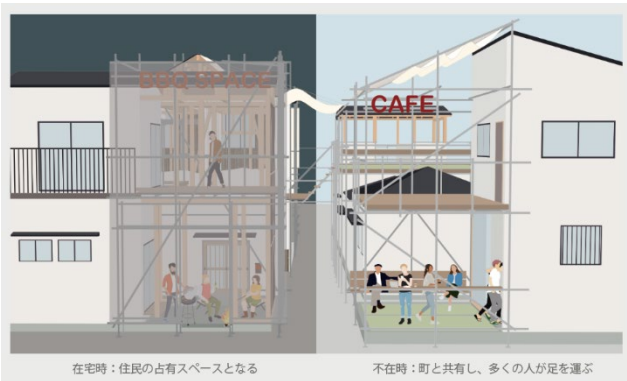


Figure 3. Elevation

#### ① 不在時

メッシュシートを開くことにより、住戸を地域住民に開放する。町との境界線がなくなり、住戸は町の一部となる。計画敷地のいたる場所に趣味に特化した空間が生まれることで地域住民は必要な時に必要な機能を求めて練り歩く。そして、地域全体が賑わう。また、住居と町との境界線である敷地境界線に建てられた足場をくぐることで他人の敷地を借りていることを意識させる。



Figure 4. Commons Space

#### ② 在宅時、火災時

メッシュシートを閉じることで、町から距離を置き住民の占有となる。また、火災時も閉じることで防炎のメッシュシートが火災の延焼を防ぐ。



Figure 5. Exclusive location



Figure 6. Exclusive location

### 5.3 用途

滞在している朝方、夜間は住戸として活用し、住留守にする昼間は店舗等として地域に貸し出し活用する。

## 6. 建築概要

- ・所在地：神奈川県浦島町・子安通1丁目
- ・主要用途：住居、娯楽空間、店舗
- ・敷地面積：2560 m<sup>2</sup>
- ・建築面積：1524 m<sup>2</sup>
- ・延床面積：2984 m<sup>2</sup>

## 7. 参考文献

[1] 変化する家族の形

[https://www.es-inc.jp/graphs/2021/grh\\_id008623.html](https://www.es-inc.jp/graphs/2021/grh_id008623.html)  
(2021年12月4日)

[2] Google Earth

<https://g.co/kgs/CqyDeUM>